

キトラ古墳壁画の辰・巳・申・午の現状について

キトラ古墳壁画の十二支のうち、図像の存在の有無は以下のように確認されている。

漆喰の上に存在が確認されているもの	子・丑・寅・戌・亥
漆喰表面を覆った泥に転写されたもの	午
該当箇所の漆喰が泥に覆われており存在の有無が未確定なもの	辰・巳・申
該当箇所の漆喰が失われているもの	卯・未・酉

漆喰の上に存在が確認されている五体については、これらを含めて壁面の再構成を行う予定である。泥に転写された午の図像については、再構成に含めることは困難である。

図像の推定される位置が泥に覆われている辰・巳・申については、午の事例を踏まえ漆喰取り外しは表面の泥と一体化したまま行った。現時点では図像の存在は未確認のまま、下記のような保存状態であるため、再構成に含めることは困難と考えられる。

辰・巳・申 該当部分の現状

取り外し時の通常の表打ち（レーヨン紙2層（接着剤はヒドロキシプロピルセルロース））を残したまま、^{こうぞがみ}楮紙で表打ちと裏打ちを行った（接着剤は^{でんぷんのり}小麦澱粉糊を使用）。漆喰自体は乾燥している。

保管中に湿度変化などにより、泥の付いている表面と漆喰とのバランスが狂い、漆喰の形が平らに保てなくなる可能性もあるため、現在通常はトレイに入れ、上から少し重さをかけた状態（高さを合わせたアクリル板を置く程度）で保管している。

（取り外し日時：辰 平成22年（2010）11月18日 巳 平成22年（2010）11月19日 申 平成22年（2010）10月19日）

午の現状

ほぼ泥のみの状態（端の一部を除く）。転写された泥の、乾燥に伴う収縮により図像の破損が予想されるため、乾燥防止に細心の注意を払い、密封状態で保管している。

接着剤等は何も使用しておらず、泥も絵具部分も未処置である。

乾燥を防ぐため、エスカルにて常時二重に封入しており、脱酸素剤も同封している。

数日に一度、目視にて（水分の変化等）確認を行っている。取り外してから現在に至るまで、一度も乾かさずに湿りを保たせており、乾燥を感じた場合は開封して適宜加湿した後に再封入をしている。

（取り外し日時：午 平成17年（2005）6月14日）

写真 1 辰該当部分の状態写真

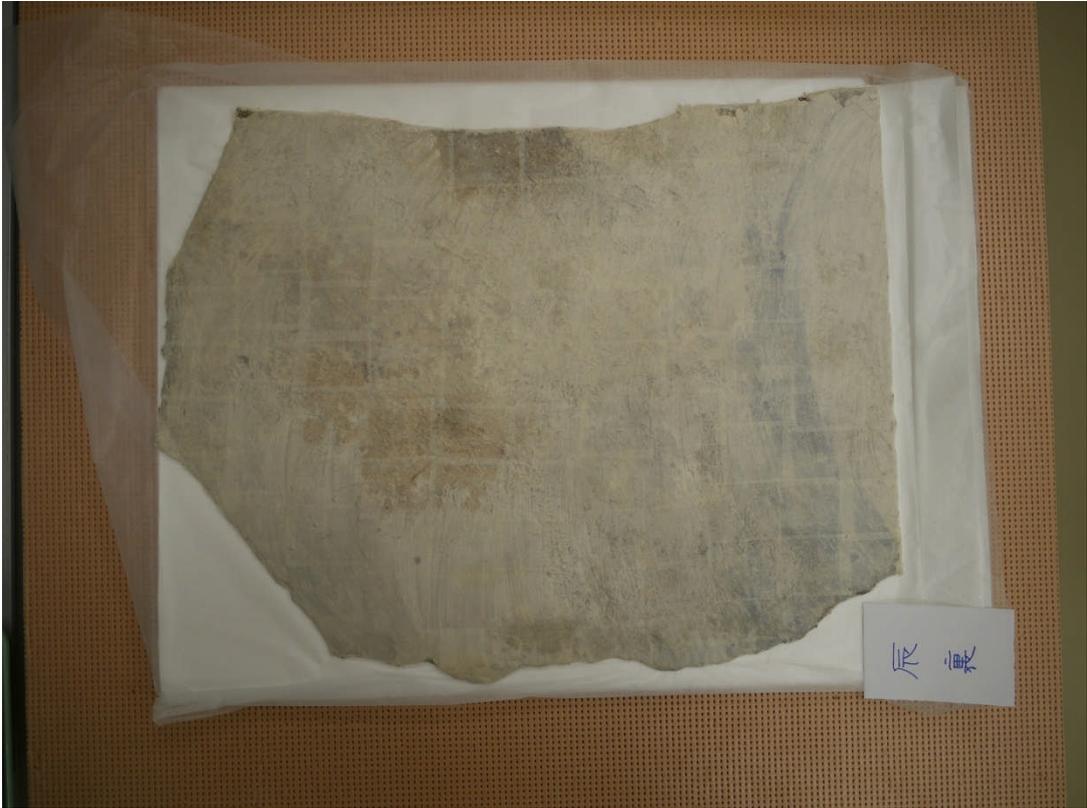


写真 2 巳該当部分の状態写真

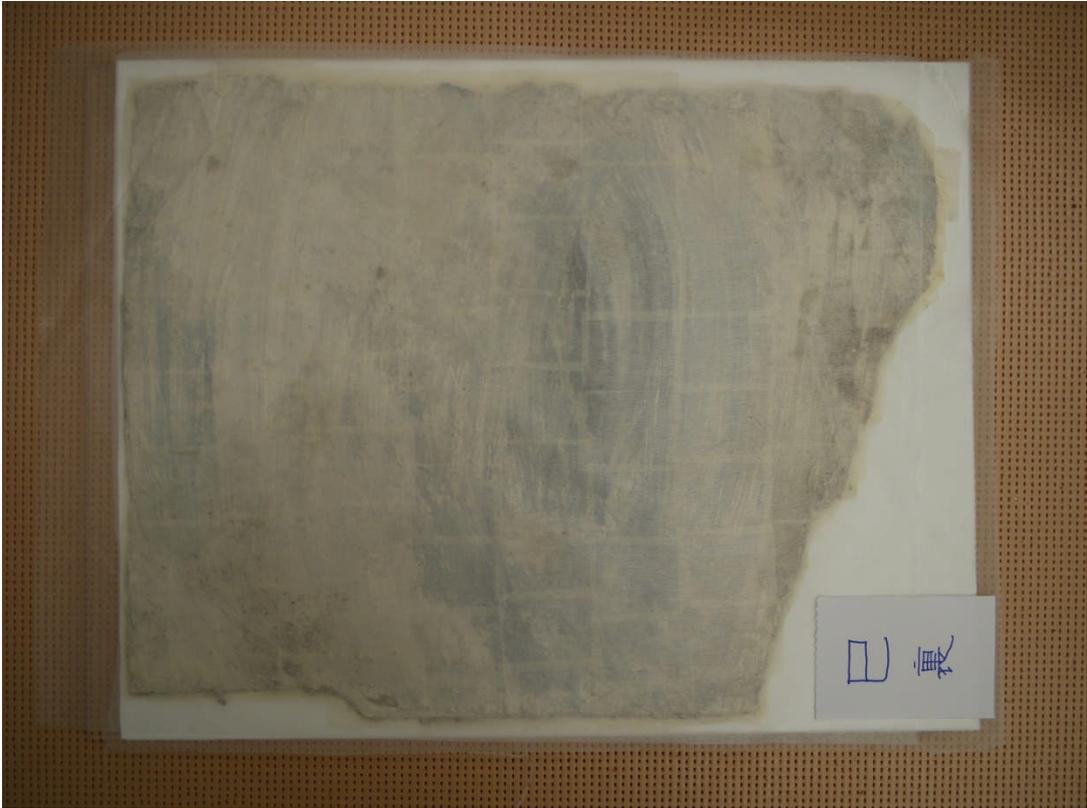


写真3 申該当部分の状態写真



写真 4 午の現況写真

